



小・中学校の1クラスの子どもの数は、最大で40人となっているけど、平均すると何人くらいなの？  
それと諸外国と比べて日本の1クラスの子どもの数は多いの？ 少ないの？

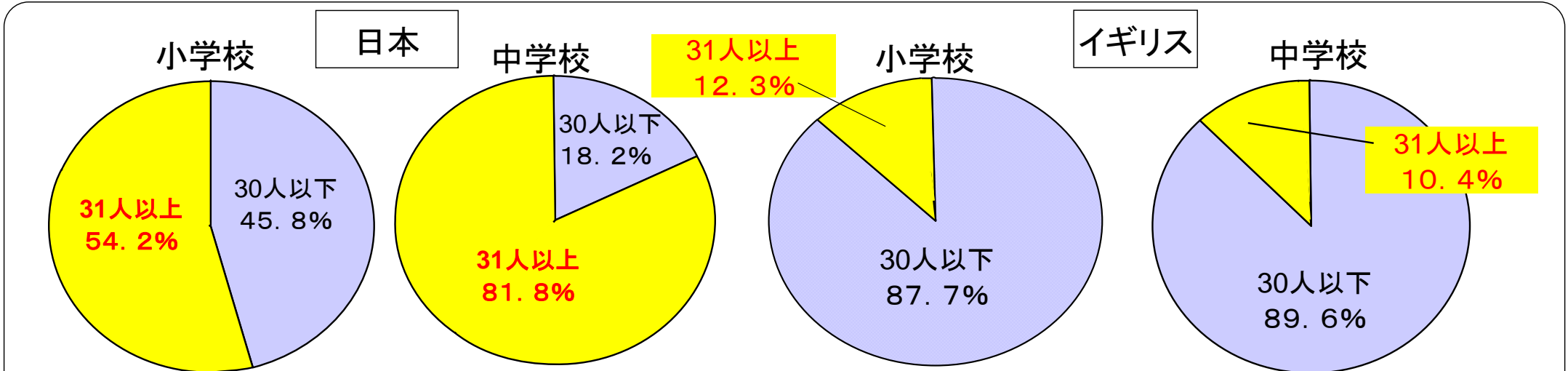
	小学校 (初等教育)	中学校 (前期中等教育)
日本	28.0人	33.0人
OECD平均	21.6人	23.7人

(OECD「図表で見る教育(2010年版)」)

1学級当たりの子どもの数の平均は、  
小学校の場合、日本は28.0人。  
OECD平均は21.6人となっていて、  
諸外国に比べ6.4人も多いの。



それから、30人を越える学級の割合を、日本とイギリスで比較してみると、イギリスは小学校で12%、中学校で10%と少ないけれど、日本は小学校で54%、中学校で82%となっていて、日本の1クラスの子どもの数はとても多いことが分かるわね。



(日:平成21年度学校基本調査 英:DCSF:Schools,Pupils,and their Characteristics,January 2009)

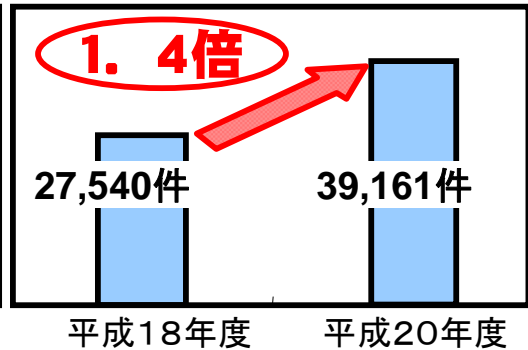
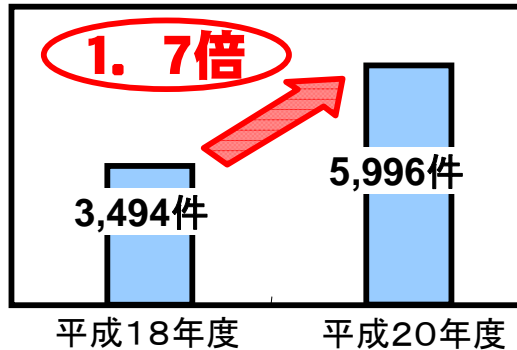


日本の1クラスの子どもの数は、諸外国に比べて多いことは分かったけど、  
それでなぜ、少人数学級にしなければならないの？

**学校内での暴力行為の件数**

小学校

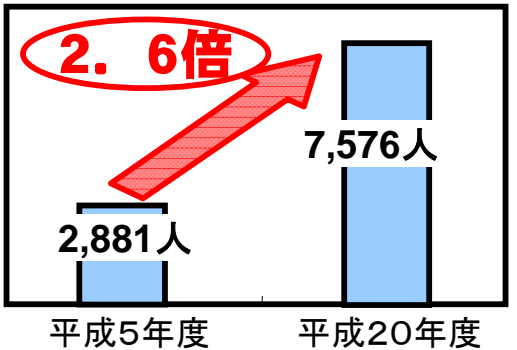
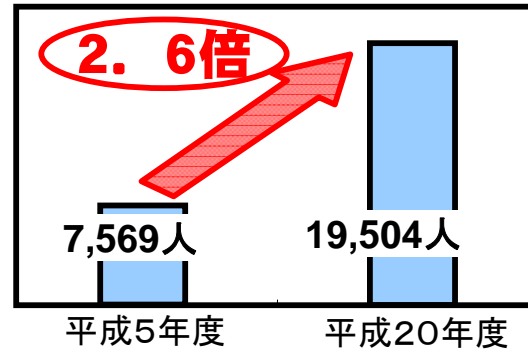
中学校



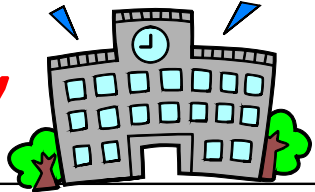
**日本語指導が必要な外国人児童生徒数**

小学校

中学校



**生徒指導面の課題が複雑・多様化!**



**特別な支援を必要とする子どもが増加!**



最近の学校は、暴力行為や不登校などが深刻な問題となっていたり、障害のある子どもや外国人の子どもなど特別な支援を必要とする子どもたちも増加しているの。そんな中、来年度から、授業時数や指導内容が増加する新学習指導要領が完全実施されることになっていて、こうした学校が抱える課題に適切に対応して、子どもたち一人ひとりに質の高い教育を行えるようにするために、**今、少人数学級の実現が強く求められているのよ。**



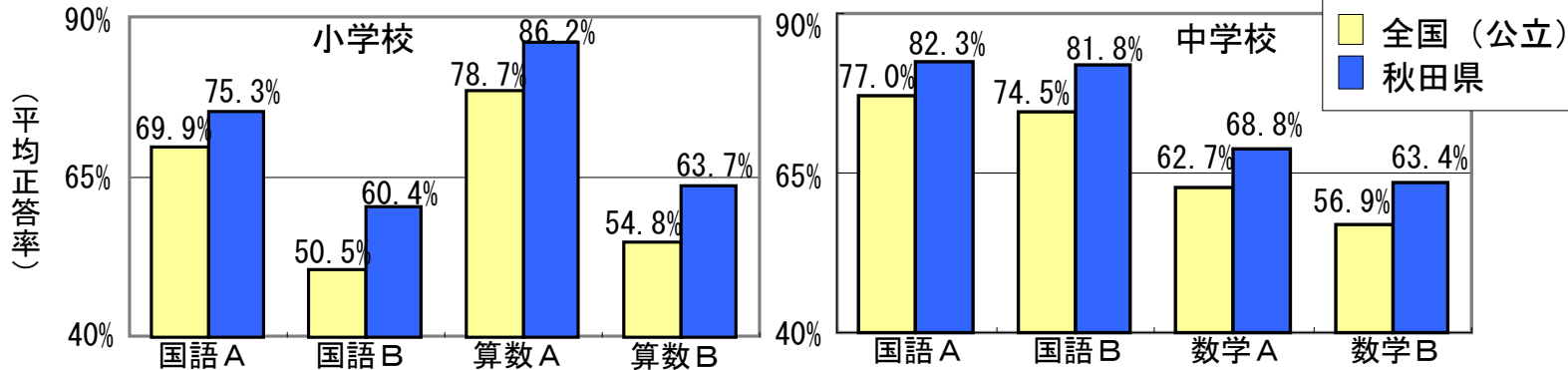
# 少人数学級を実施すると、どんな効果があるの？

## 先行して少人数学級を導入している県では…

### 秋田県

※平成13年度より導入 (H22: 小1・2, 中1で30人程度学級を実施)

平成21年度「全国学力・学習状況調査」結果

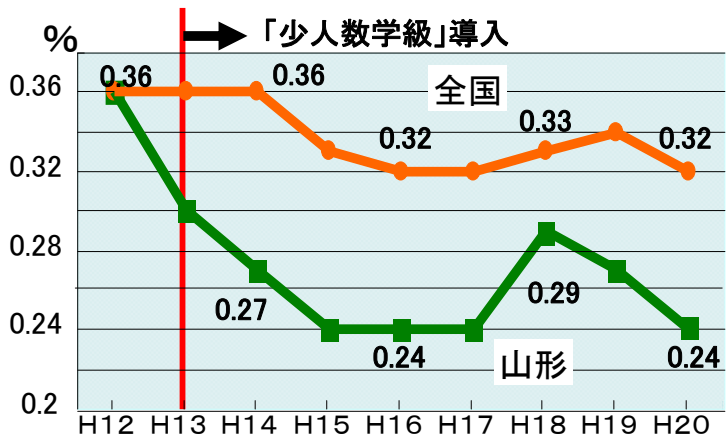


全国学力調査で4年連続上位の秋田県は、早くから少人数学級に取り組んでいるの。また、同様に山形県でも、不登校の出現率や欠席率が低下するといった傾向が見られているよ。

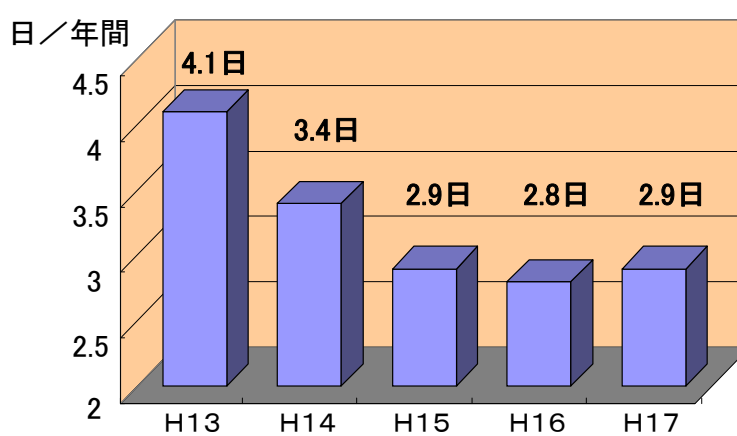
### 山形県

※平成14年度より導入 (H22: 小全学年, 中1・2で21~33人学級を実施、中3は一部実施)

小学校不登校児童数(出現率)



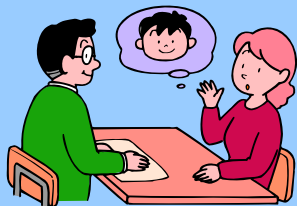
欠席率の変化(児童一人あたりの欠席日数)





40人学級だと教室にゆとりがないのに対して、少人数の学級では、教室のスペースを活用して、グループ学習など子どもたちの学び合いや話し合いによる学習がしやすくなるの。右の写真にもあるように、子どもたちの発言や発表の機会が増えることも一目瞭然ね。単に1クラスの子どもの数を少なくするだけではなくて、学習内容に応じて工夫を凝らした授業を行うことで、子どもたち一人ひとりにきめ細かな指導ができるようになり、子どもたちの学習意欲が向上するといった効果が期待されるのよ。

- ・理解度や興味・関心に応じたきめ細かな指導が可能
- ・発言・発表機会が増え授業参加がより積極化
- ・教室にゆとりが生じ様々な教育活動が可能
- ・教員と児童生徒の間の関係が緊密化



- ・生徒指導上の課題に即した個別指導の充実
- ・幼稚園からの円滑な移行により小1プロブレムに対応

《 40人学級の場合 》



《 少人数学級の場合 》



(写真提供：香川大学教育学部附属高松小学校)



少人数学級は、きめ細かい指導で勉強する意欲がわいたり、悩みや相談も先生にじっくり聞いてもらえたり、良いことがたくさんあるんだね。

